

ふくおか 県学歯



柳川の堀割

2016. 1 No.88

Contents

○巻 頭 言	杉原 瑛治 ..	1
○第20回福岡県学校歯科保健研究大会		2
実践活動報告	村上 恵里 ..	3
基調講演①	佐伯 浩 ..	3
基調講演②	山本 みさ ..	3
特別講演	福田 泰造 ..	4
シンポジウム（ディスカッション）	岡崎 好秀 ..	4
総 括		5
○平成27年度全国学校保健・安全研究大会 第65回全国学校歯科医協議会 ..	古賀 寛一 ..	7
○平成27年度九州地区学校歯科医会役員連絡協議会	三箇 正人 ..	8
○第88回日学歯臨時総会報告	須ノ内茂子 ..	9
○歯 鏡	古賀 寛一 ..	9
○第79回全国学校歯科保健研究大会	平瀬 久義 ..	10
○第14回九州地区健康教育研究大会	原野 啓二 ..	12
○平成27年度よい歯の学校表彰について報告		12
○平成27年度「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」審査結果		13
○平成27年度 歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール受賞作品並びに総評		16
○平成27年度「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」審査結果		17
○養護教諭校外研修会について	平瀬 久義 ..	18
○郡市区だより		
小 倉	上田 雄造 ..	19
田 川	手嶋 裕治 ..	20
筑 紫	岡村 博久 ..	21
戸 畑	畑山 直輝 ..	22
直 方	山本 清 ..	23
豊前築上	宮部 宏之 ..	24
京 都	吉永 隆一 ..	25
宗 像	古賀 清和 ..	26
○表 彰、事業報告、会務報告		27
○物故会員、公告、予告、編集後記		28

新年度に向けて

会 長 杉 原 瑛 治



明けましておめでとうございます。

昨年度学校保健安全法施行規則の改正があり本年の新学期より施行されます。先生方のお手元に「学校歯科医の活動指針」改訂版が
お届けのことと思います。大きな改訂はありませんが、消毒に
ついては口腔内に手指を入れない、ダブルミラーで行う、グローブの使用となっています。この
方法には、まだ学校によってはご理解していただかなければならない点があり、しっかり話し合
う必要があります。また診断票の記入方法、事後措置に関することが変わりました。健診の結果
による今後の指導方法を記載した「健診結果のお知らせ」を全生徒に配布するようになりました。
健診結果に問題のない児童・生徒もお知らせを見て今後の励みにもなると思います。また「保健
調査票」の有効活用をするために、全家庭に事前調査の報告をもらい、家庭との連絡内容をしっ
かり把握しておくようになりました。

一般社団法人になり単年度決算での事業方法を行い、また会費の納入時期の変更ではご迷惑を
おかけしましたが、現在まで順調に活動が出来ています。理事と常務理事の職務が重ならないよ
うな仕事分担にし、理事が委員会を責任持って統率する、委員会の名称にこだわらずに委員会同
志で仕事を共有してバランスをとる、このような方法で作業をしています。20周年記念福岡県学
校歯科保健研究大会は盛大に終えることが出来、皆様のご協力に感謝致します。ご来賓の方々
には早めに来ていただき、事業報告を行い、県学校歯科医会の役割をご理解いただき、今後の活動
にご協力をいただきますようお願いいたしました。そして多くの方々に学校歯科医会を認知し
ていただくため、他団体への広報活動を行っていきます。歯科健診結果統計調査も公立の小・中
に加え高校も集計を行っています。特別支援学校、私立学校、福岡市内の学校の集計もできるこ
とが現実味を帯びてまいりました。これからも会員の先生と、役員、委員の先生方のご協力を得
ながら会務の運営をさせていただきます。

最後になりましたが、歯科保健は疾病志向から健康志向へ大きく舵を切りました。それにより
学校歯科保健の専門職である先生方は、学校歯科保健の管理、指導者として学校保健委員会等
での活動範囲が広くなり大変ですが、先生方のめざましい活躍に期待をしています。『学校へ行こ
う』熊本の学校歯科医の合言葉です、私たちもこれを使いましょう。雑然となり取り留めのない
報告になりましたが新年のご挨拶といたします。



大会会長あいさつ

会長 杉原 瑛 治

第20回学校歯科保健研究大会を開催するにあたりご挨拶申し上げます。平素より福岡県学校歯科医会また歯科保健活動にご支援ご協力をいただいております関係者ならびにご来賓の皆様方のご出席をいただき開催できますことを衷心より感謝申し上げます。

さて本日受賞される皆さまは学校歯科保健活動が高く評価されてのご受賞です。日頃の活動に感謝いたします。図画ポスター・標語の入賞者の皆さまも心よりお祝いを申し上げます。今後ますます学校歯科保健活動をご推進いただくことをあわせてお願い申し上げます。

今日、研究大会も20回目を迎え記念大会にするための準備を行ってまいりました。一般社団法人として他府県の歯科保健活動にまけない会としての内容です。明日からの実践活動の参考になる大会を企画しています。学校歯科保健活動にすぐに役立つお話を用意しております。学校歯科保健活動をととして生徒指導まで出来る、出来た、生徒たちの毎日の行動が生き生きしてきた、まさに学校歯科保健の目指すことを実践されている先生と実感できると思います。「うちの学校では無理だ。出来ない」でなく、協力者を一人ずつ増やして活動を始めてください。

よろしくお願い申し上げます。本日このように学校教職員、保護者、学校歯科医、歯科衛生士、行政が一堂に会しての研究大会を開催することは仲間を増やす、理解を頂く意味においては大変意義のあることと思います。多くを共有しましょう。学校歯科保健関係者は日本を担う子供たちの歯・口の健康づくりを通して基本的な生活習慣の確立、自律的な健康づくりのために一層の努力をする義務を負っていると思います。子供たちが生涯にわたって、自律的に自らの健康づくりを積極的に取り組んでいく事が出来るように、学校、家庭、地域そして行政それぞれが協働しながらの連携、また歯・口の健康づくりを含む学校における健康教育の在り方が、国民の一生の健康づくりを決定すると言えます、それだけに学校における健康教育を一層重視する必要があると思われます。子供の生涯にわたる健康づくりの基礎を培うことが大事です。本日の研究がご参加の皆様にとって実り多い大会となることを期待しています。

本日の大会にご協賛いただきました皆様へ厚く御礼申し上げます。併せてご参加の皆様のご健勝とご発展を祈念し、ご挨拶いたします。



〈清水日学歯会長〉



〈杉原会長〉

テーマ「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して」

～児童・生徒の「生きる力」を育む歯・口の健康教育～

実践活動報告

「自己を見つめ、豊かな心と健やかな体づくりに取り組む子どもの育成」
～「食事・運動・睡眠」を柱にした、望ましい生活習慣の定着を目指して～

北九州市立二島小学校 養護教諭 村上 恵里

北九州市立二島小学校 教諭 佐伯 浩



はじめに佐伯教諭より研究の概要が説明され、続いて村上養護教諭より研究の実際について具体的な説明があった。

本校は、基本的な生活習慣の確立を目指して「食事・運動・睡眠」を健康教育の中核に捉え23年度「早寝、早起き、朝ごはん」24年度「たべる・あそぶ・ねる」というスローガンを掲げて、主に保健委員会、運動委員会、給食委員会の充実を通して、児童の健康に対する意識の向上に取り組んできた。

歯と口の健康では、22年度に未処置歯のある児童が北九州市平均を大きく上回っていた為、発達段階に応じた「歯と口の健康」に関する指導に取り組むと共に、児童が主体となった様々な活動を実践した結果、24年度北九州市よい歯の表彰で「市長賞」を受賞した。25年度には福岡県学校歯科医会より「生きる力をはぐくむ歯と口の健康づくり推進事業」の委嘱を受け、引き続き研究に取り組む事になった。

主な取り組みとしては「歯と口の健康」に重点を置き、研究推進計画の立案、担任・養護教諭による保健指導、「保健だより」を活用した保護者への啓発、委員会活動や学級活動の取り組み。中でも「はやね・はみがき」の習慣化に向け「元気・キラリンスマイル週間」の期間を設け、自分の「はやね・はみがき」の目標を立て、目標と結果をカードに詳しく記入、結果を評価し達成に向けて頑張る取り組みをした。また保健委員会では「はやね・はみがき」のマスコットキャラクターやキャッチフレーズを決め、各教室を啓発して回った。他にも3つの委員会が合同で、歌や体操など自分たちの発想を持って啓発する集会活動「元気キラリンスマイルフェスタ」を開催した。このように、児童が楽しみながら主体的に取り組むことで、児童一人ひとりが健康に関心を持ち、より良い生活習慣を身に付けようとする意欲を高めてきた。

これらの実践活動を通して、豊かな心と健やかな体づくりに主体的に取り組む、よりよい生活習慣を身に付けようとする児童の育成を目指している。

基調講演①

「生き方を学ぶ 生き方を考える 学校での歯科保健」
～“かくありたしの像”を求めて～

鳥取市立鹿野中学校 養護教諭 山本 みさ



本校は、平成27年度より日本学校歯科医会の研究指定校となり、健康教育の柱として学校歯科保健を推進している。

前任の気高中学校では、学校歯科保健を通した生活習慣指導が、生徒たち個人の健康感を培うことにつながり、周囲との協力・協調を育むことにつながった。その結果、健康課題は改善し、学力もあわせて向上していった。

本校では「道徳教育を核とした学校教育の創造～かくありたしの像の構築をめざして～」という教育目標のもと生徒の道徳的価値の向上に全教職員で取り組んでいる。

私は「健康でなければ高い志などは抱けないのではないか」と考えている。そこで、自分の目で見てその変化を実感できる「歯・口」を学習教材として、歯みがきや食を含めた生活習慣をより良いものにしていく取り組みを進めている。同時に、人の生き方を学び、自己の生き方を問うような道徳教育につなげていきたいと考えている。

基調講演②

「子どもの心と体を元気にできる健口食育」

南島原市立口之津小学校

教諭 福田 泰造



学校における歯科指導は、むし歯予防・歯周病予防の歯みがき指導が主なものであったが、命の入り口である口の世界はあまり指導されないままであった。例えば、「よく噛みなさい」と言われるが、子供たちはみんな分かっているし、他人事のように感じて学ぼうとしない。しかし、なぜよく噛まなければならないのか、よく噛むとどのような良いことがあるのか理解していたのでしょうか？食育推進の環境である『噛ミング30』を子供に習慣化するためには、子供が自らやりたいと思えるような食育指導が必要だと思われる。

よく噛むことによってどんなことが起こるのか？子供たちが問題を発見し、その問題を解決するためにテーマを決め、自分たちで情報収集をしてみんなです話し合っ意見を取りまとめる。それをわかりやすくプレゼンするために練習をして発表する。子供たちは発表を聞いてくれ、評価してもらうことに喜びを感じる。これらのことは、子供たちの意欲を喚起し、さらには思考力・判断力・表現力を育むのに大いに役に立っている。

「口の健康」を子供たちに伝え「自分の健康は自分で守る」すなわち「生きる力」を育み培う「健口食育」が重要である。

シンポジウム（ディスカッション）

児童・生徒の「生きる力」を育む歯・口の健康教育

座 長

春日市立春日西小学校 校 長 福原 秀伸

シンポジスト

鳥取市立鹿野中学校 養護教諭 山本 みさ

南島原市立口之津小学校 教 諭 福田 泰三

国立モンゴル医科大学 歯学部

客員教授 岡崎 好秀



座長の福原先生より、3人の講師の先生へ質問をするという形式でシンポジウム（ディスカッション）が行われました。

子供たちをやる気にさせる、それを持続させる方法という質問では、岡崎先生は子供たちの興味を持つようにこちらから導く（例えば授業をクイズ形式にする）というお答えでした。

福原先生は本気を出して良い環境を作ることがまず大切だ。「できない」と分かることも重要なんだと子供たちに伝える、そしてできたら「感謝」の気持ちを伝え、「ありがとう」と声をかける、そこから共に作り上げるという競争を子供たちに意識させることが良いとのことのお答えでした。

山本先生は、何のためにそれをするのかということ子供たちに説明することが重要である。スポーツを通じてチームが強くなっていくことを子供のやる気にして、スポーツの結果が良ければ今までやってきたことが間違いではなかったと子供たちが自ら思うことが大切だとのことのお答えでした。

最後に会場からの質問にも、3人の先生方は自らの経験や教育方針をふまえて、分かりやすく丁寧なお答えをいただきました。

特別講演

「学校歯科医から見た食育」

国立モンゴル医科大学 歯学部

客員教授 岡崎 好秀



講師の岡崎好秀先生は岡山大学病院小児歯科の講師を経て、現在、国立モンゴル医科大学の客員教授をされており、時折、クイズをはさみつつ、幅広い引き出しの中から誰もがわかりやすい例えを引用しながら、ユーモアを交えて講演されました。

先生は日頃から、診療を通して小児や障がい児と接して、「歯・口の健康づくり」が子供の生涯にわたる健康づくりにどのような効果をもたらすのか、常に問題意識をもって取り組んでされました。

現在、多くの地域で食育に関する活動が行われていますが、栄養学としての食育が中心となっています。体に良いものを食べても、噛まなければ消化不良を起こすだけです。“口に入った後の食育”すなわち“どう食べるか”、これが“よく噛む”ことです。

岡崎先生は、「口は食べ物が最初に入る場所であるから、食べ物が変われば最初に変わるのは口」と考えてくれました。

柔らかい食物の増加により、歯周疾患・不正咬合の増加、唾液分泌量の減少、滑舌の低下、口呼吸などの問題は、食物や食べ方の変化が原因の一つと考えられています。

昔の子供の患者さんの口腔内は治療がしづらぐらい、唾液で溢れかえていたのが、現代の子供は先生が命名した“水洗式咀嚼”（いわゆる流し込みたべのこと）により、唾液の分泌が低下し、そのことによる種々の弊害を懸念されていました。

最近では口が開いている子供が多く、それが口呼吸性歯肉炎やウイルス感染、給食つまらせやひどい時にはロウソクの吹き消しが出来ない等の問題にも関係し、それは離乳食の与え方から唇を使う訓練をしていないのではないかと警鐘を鳴らしていました。「心に貯金をして帰す」—これは講演の冒頭の言葉です。

患児の心に借金（泣き顔）ではなく、貯金（笑顔）にして帰すということです。

この講演を聴くためだけに夕方から来られた方もいるほど盛況でした。



総括

平成27年10月24日（土）福岡県歯科医師会館5階大ホールで、第20回福岡県学校歯科保健研究大会が開催された。日学歯、県教育庁をはじめ多数の来賓を迎え、学校歯科医、養護教諭、学校栄養士、歯科衛生士、学校教育関係者など、381名の参加で充実した一日になった。団体表彰として一般社団法人豊前築上歯科医師会、よい歯の学校表彰として県内より5校が表彰された。

また、歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール、ならびに健康啓発標語コンクールの優秀作品に対し、福岡県学校歯科医会会長賞ならびに福岡県教育委員会賞として、児童・生徒、8（12）名の表彰式が行われた。

最初に、「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して」～児童・生徒の「生きる力」を育む歯・口の健康教育～という主題を基に、実践活動報告が行われた。

その後、基調講演が2名より行われ、講演終了後シンポジウムディスカッションが行われた。

最後に国立モンゴル医科大学歯学部客員教授岡崎好秀先生より「学校歯科医から見た食育」について特別講演が行われた。

実践活動報告・基調講演・特別講演いずれも非常に素晴らしく、明日からの学校歯科保健活動に役立つものばかりであった。学校歯科保健関係者として大変有意義な研究大会となった。



図画・ポスター・標語コンクール受賞者



展示コーナー



◇参加者の声（アンケートからの抜粋）

学校歯科医（含園医）10名、歯科医師（校医以外）1名、歯科衛生士11名、学校教育関係4名、養護教諭・保健主事28名、学校栄養士・栄養士8名、その他12名の計74名より回答を頂きました。

☆学校歯科医

- ・大変勉強になった。沖縄から参加しただけのかがあった。

☆歯科医師（校医以外）

- ・今後教育の場にも関わっていくことがあるだろう歯科衛生士を養成していく立場として食育の大切さをしっかり伝えていきたい。

☆歯科衛生士

- ・食育の大切さを改めて感じた。もう一度自分の子供を育て直したいと思った。とても興味深い話で勉強になった。
- ・全ての講演・シンポジウムにとっても満足した。食育も学ぶことがあまりないので今回聞けて良かった。

☆学校教育関係

- ・学校歯科保健の健康教育としての可能性を改めて認識した。

☆養護教諭

- ・久々に感動的な話をありがとう。とても参考になった。子供の笑顔を失わせたくない“響育”が出来るよう頑張りたい。
- ・子供たちの歯・口腔の状態が厳しい状況に陥っていることに危機感を覚えた。今後の学校での保健指導の参考にさせていただきたいと思う。

☆学校栄養士・栄養士

- ・どの先生の話も勉強になり、もう少し聞きたかった。噛むことの大切さ、職場で子供たちに伝え実践していく。

☆その他

- ・初めての参加。今の子供たちの口腔内について学校の取組を知ることが出来勉強になった。

平成27年度 全国学校保健・安全研究大会 第65回全国学校歯科医協議会

広報担当理事 古賀 寛一

平成27年12月3日（木）・4日（金）に愛媛県松山市で開催され、福岡県学校歯科会から杉原会長、三箇副会長、平瀬専務、古賀の4名が参加し、15時から開会式、その後表彰式において文部科学大臣表彰が授与された。

受賞者

「学校保健の部（個人）」

徳島県 藤野 正晴（学校医）

「学校安全の部（団体）」

愛媛県 宇和島市立戸島小学校

「学校安全ボランティア活動の部」

広島県 今治私立日高小学校



文部科学大臣表彰を受賞された山地直樹先生

16時より兵庫教育大学大学院教授 西岡伸紀先生から子供たちの意志決定能力を育てる「～健康教育とライフスキル教育のコラボレーション～」について2時間の記念講演があり初日が終了した。

2日目は、早朝より「ひめぎんホール サブホール」において課題別研究協議会が第10課題にわかれ行われ、第5課題の「歯・口の健康づくり」に参加、「生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方」について研究発表が行われた。

研究発表者及び課題

①愛媛県立宇和特別支援学校

養護教諭 片桐 弥生

「健康診断の効果的な実施と結果等を活用した健康教育の実施について」

②徳島県立徳島科学技術高等学校

養護教諭 近藤 真理

[歯・口の健康づくりを目指した歯科保健活動の取り組み]

③高知県の町立長沢小学校

校長 長瀬 由英

学校、家庭及び地域社会が連携した学校歯科保健活動の進め方について、[－かんで みがいて 元気に歯ハハー]

最後に講師として、九州大学大学院教授 山下喜久先生より「学校歯科保健から生まれ出るパラダイムシフト－8020から8028へ」の講義があり、東京都教育庁地域支援部義務教育課 歯科保健担当課長 三ッ木浩さんの総評で終了した。



平成27年度

九州地区学校歯科医会役員連絡協議会

副会長 三 箇 正 人

全国で猛暑日が続く、連日熱中症被害の報道がされている中、平成27年度九州地区学校歯科医会役員連絡協議会が、8月8日（土）午後2時より、宮崎県歯科医師会（重城正敏会長）が担当で、宮崎県歯科医師会館において開催された。本協議会には、日本学校歯科医会より、清水恵太会長、川本強専務理事が参加し、九州各県担当役員代表、開催県宮崎県歯科医師会会長並びに担当役員、委員が出席した。本県からは、杉原会長、平瀬専務理事、三箇が参加した。

会長挨拶、座長選出の後、川本専務理事より、日本学校歯科医会事業報告がなされ、学校歯科保健に関する調査研究、普及啓発、生涯研修制度、広報、表彰、各種大会、会議等々の説明があった。

引き続き協議に入り、

- (1) 日本学校歯科医会への要望質問について
- (2) 平成27年度九州各地区学校歯科関係事業計画について
- (3) 各地区提出協議題について
- (4) その他



が、座長のもと、約3時間にわたり活発に意見交換がなされた。

協議の後、宮崎県川南町役場福祉課の保健師渡邊寿美さんより、「川南町におけるフッ化物洗口の取り組みについて」との演題で講演があった。平成18年より町の方針として、健康福祉課が取り組み始め、健康福祉課に事務局を設置した。そして保健所の保健師が中心となり、歯科医師会の協力のもと、校長会、保育所、幼稚園、小学校関係者、更には教育長、教育委員等への説明会を丁寧に開き、その事から生じた数々の反対運動を乗り越え、翌平成19年8月より町内の全保育所11施設、9月より幼稚園2施設、小学校5校へのフッ化物洗口が開始され、その後中学校2施設も開始に至った経過が報告された。また、現在も教育委員会を始め様々な機関の連携によって継続され、更に事業実施要綱に基づいて、歯の衛生教育が保育所（園）、小学校、中学校でなされているとのことであった。本県にとっても、参考とできる有意義な協議会であった。



第88回 日本学校歯科医会 臨時総会

副会長 須ノ内 茂 子

平成27年9月16日（水）、午後1時30分よりアルカディア市ケ谷私学会館にて、第88回日本学校歯科医会臨時総会が開催された。本会から代表会員として平瀬専務理事、松田理事、楠本理事、須ノ内の4名が、日学歯役員として杉原会長が出席した。出席者数は、代表会員124名中115名で欠席者が9名であった。

清水恵太会長が新役員の紹介・挨拶で、臨時総会は日本学校歯科医会として初めてであり、新たな予算が発生することになるが、事業を執行するには必要なことであるとされた。また、長野県で開催される全国学校歯科保健研究大会に関連する文科省問題については、詳しい経緯を説明され、文科省からの提言を今後1年間で実行し、改善すると述べられた。

続いて日本歯科医師会 高木幹正会長が来賓の挨拶をされた。報告事項として、会務現況報告、会計現況報告がなされた。健康診断についての質問があり『学校歯科医の活動指針＜平成27年改訂版＞』の特記すべき変更点2点と、（公）日本学校保健会監修の「児童生徒等の健康診断マニュアル」の文言箇所訂正があった。次の報告事項全国大会における主催者である文科省の報告の件

がなされると会場から厳しい質問が続々と出され、たくさんの時間を費やした。建設的な意見は少なく、いつ議事に入るのか気をもんだ。

議事に入り、第1号議案総会議長・副議長の選出の件では議長・副議長が承認された後、議長が新任の挨拶をされた。第2号議案 予算決算特別委員会委員の選出の件、第3号議案 議事運営特別委員会委員の選出の件、第4号議案 選挙管理委員会委員の選出の件が上程され、原案通り賛成多数にて可決された。



歯鏡

いじめに対する、血液型、体型型対処法

今回はA型についての対処法です。
次号はO型について掲載予定です。

（A型—やられたらやり返せは、逆効果）

A型の子は環境に順応していくのは上手で、気の優しい子が多くみられます。

A型は神経が繊細で引っ込み思案、行動より思考が先走り、人の気持を気にしすぎる特徴があります。こういった性格の子は、いじめっ子にとって格好のいじめの対象となるわけで、いじめられた場合には、どうして自分のことをいじめるのだろうかと悩んでしまいます。

A型の子が泣いて帰って来た場合は、長所をほめるのが最も大切になります。「やられたらやり返して来なさい」と、突き放すのは逆効果です。A型の子にとって仕返しなどは考えられないし、みじめになるばかりなのです。むしろ話をよく聞いたうえで、「乱暴はよくないわね。あなたのような優しい子は、りっぱな大人になれるのよ」と話して聞かせることが大切です。

A型で痩せ型— A型の中では一番神経質で、頭ごなしに叱るのは禁物。話をよく聞いて対応しましょう。また甘

えん坊な面もあって、ちょっとしたことで母親に頼りがち。たくましさを養うためにも時には突き放すことが必要です。このタイプの子には細かな気配りが大切。

A型で標準型— 明朗で人付き合いはうまい方。いじめに対しては、親も一緒になってカッカしないので、『学校ではいじめられても、家では皆に頼られるのだから』といった代替の目標をもたせると、親に甘えることもなくなるでしょう。しかし、痩せ型と同様、細かな気配りは大切。

A型で小太り型— はしゃいだり、ふさぎこんだりの二面性があるので、いじめられてふさぎこんでいる時は、親がよい聞き役になってやることです。

いじめられる原因に、動作がのろいということもあるので、スポーツで活発な行動力を養うのが適当。

A型で肥満型— 明朗・活発な子が多く、あまりいじめの対象にはならないのですが、いじめられるとすれば、ちょっとしたやっかみとか、案外つまらないことが原因なのかもしれません。肥満が原因の場合は、元気で活発なことが長所であることを言い聞かせてあげましょう。

（参考文献 志賀 貢先生、血液型、体型別しつけ法）より

広報委員会担当理事 古賀 寛一

第79回全国学校歯科保健研究大会

専務理事 平 瀬 久 義



第79回全国学校歯科保健研究大会が、平成27年10月29日（木）・30日（金）の2日間、長野県長野市長野県民文化会館（ホクト文化ホール）をメイン会場に開催された。

当会からは、杉原会長、私平瀬が参加した。

本大会は、「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して」を主題テーマに、「生涯を通じて自らの健康を保持増進するための学校歯科保健のあり方」をサブテーマに、学校歯科保健の普及向上に取り組んでいる全国の学校歯科保健関係者が一堂に会し、児童生徒の健康課題について考え、解決行動を調査研究するものである。

大会1日目は開会式・表彰式が行われ主催者挨拶、来賓祝辞に続き、全日本学校歯科保健優良校表彰表彰状授与が行われた。このなかで福岡県学校歯科医会が推薦した太宰府市立太宰府南小学校が“日本学校歯科医会会長表彰”を受賞し、清水恵太日本学校歯科医会会長より授与された。

その後、基調講演に移った。

基調講演では、第20回福岡県学校歯科医会（10月24日）で特別講演をお願いした国立モンゴル医科大学歯学部客員教授岡崎好秀先生による“食育の基本は歯・口の健康づくりから”という演題で

食育中心の興味ある内容であった。

その後シンポジウムが、東京女子体育大学教授戸田芳雄先生を座長として行われ、行政の立場から長野県教育委員会事務局保健厚生課課長 宮下朋子先生、学校現場の立場から東京都中央区立久松小学校養護教諭 上野弘子先生、学校経営の立場から東京都中央区立泰明小学校元校長 木暮義弘先生、学校歯科医の立場から高知県高知市立西部中学校 野村圭介先生がシンポジストとして登壇され、本大会のサブテーマを主題としたシンポジウムが行われた。まず各立場からの基本的な意見発表があり、その後今大会のサブテーマに基づき意見交換が行われた。

シンポジストの発表の一部を紹介する。

（1）長寿県長野では、長野県教育振興基本計画、長野県歯科保健推進条例、信州保健医療総合計画、信州ACEプロジェクト（アクション、チェック、食）など様々な取り組みが行われている。その中で地域連携については“良い歯の学校表彰”の役割がおおきな効果を生んでいるとのこと。

（2）学校保健委員会を開催し、積極的に参加することで「歯・口の健康づくり」の重要性を

学校関係者全員で共有出来るようになることが、その後の学校歯科医にとって、その後の事後措置を効果的にすすめることができる鍵である。

(3) 学校保健委員会は、学校、学校歯科医、学校医、保護者をつなぐ絶好の機会である。

学校保健委員会を推進するために、現状と活性化のためのアクションということで、①学校保健委員会課題とその原因や問題点について、②活性化をはかるためのアクションや工夫について、実例を含め報告があった。

学校経営に位置づけて学校保健委員会を活用することは、家庭や地域社会に「開かれた学校」を着実に前進させるものと確信する。

2日目は、

領域別研究協議会というかたちで保育所(園)・幼稚園部会、小学校部会、中学校部会、高等学校部会、特別支援教育部会にわかれて実践

発表研究協議が行われた。

その後、領域別協議会と1日目のシンポジウムの報告があり、大会宣言が採択され閉会式となり全日程を修了した。



大会宣言

私たち学校歯科保健関係者は、健康で活力を持って生きる幼児・児童・生徒の育成を目指し、ヘルスプロモーションの理念のもとに様々な歯・口の健康づくりに携わってきた。

また、学校における歯・口の健康づくりは、目に見える健康づくり教材としても子供たちの基本的な生活習慣づくりに役立ってきた。すなわち、私たちが行っている学校歯科保健活動は、健康への関心と自律的な健康づくりを育み、「生きる力」の育成に寄与してきたものと確信している。

しかしながら、子供たちを取り巻く現在の社会の中には健康育成を妨げる種々の問題が存在し、学校歯科保健もそれに対してより一層の充実した対応が求められている。

そこで、本大会は「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して」の主題のもとに「生涯を通じて自らの健康を保持増進するための学校歯科保健のあり方」を副題に設定して研究協議を進めてきた。

学校における歯・口の健康づくりの取組の中で、疾病の認知と予防、身の安全、将来基盤の一つとなる正しい生活習慣の育成、そしてライフステージに合った食育の大切さの認識、これらは学校歯科保健に携わる人たちが一体となって児童・生徒に支援する必要がある課題と考える。その結果、児童・生徒が生涯を通じて自らの健康を保持増進するための課題を見つけ出し、自ら解決する力を培っていくと確信している。

ここに学校歯科保健関係者がより一層連携し、学校における歯・口の健康づくりを推進し、子供たちの「生きる力」の育成に寄与することを宣言する。

平成二十七年十月三十日

第七十九回全国学校歯科保健研究大会

第14回九州地区健康教育研究大会

常務理事 原 野 啓 二

平成27年8月3日（月）・4日（火）長崎市で第14回九州地区健康教育研究大会が開催されました。県学歯から杉原会長、須ノ内副会長、原野が参加しました。この研究会の趣旨は、『学校・家庭・地域社会及び関係団体との連携によるこれからの学校保健・学校安全・学校給食の在り方やその諸問題について研究協議を行い、もって生涯にわたって健康で安全な生活を自ら実践する幼児・児童・生徒の育成に資する』となっています。

3日は長崎ブリックホールにて全体会が開催され、『学校における家庭・地域社会及び関係機関との連携の在り方について考える』をテーマにシンポジウムが行われました。その後、長崎大学小児科講師 岡田雅彦先生の『小児科医が考えるこどもへの健康教育』と題し特別講演がありました。

また会場内で、県内の学校からのたくさんのポスター掲示が行われ、参加者が熱心に写真を撮ったり資料を集めていました。

翌4日は4会場に分かれて九つの分科会が行われました。第六分科会は「歯・口の健康づくり」が課題で小、中、高の3題の発表がありました。須ノ内先生はご自身が校医をされている高等学校における歯科保健

の現状を「生涯にわたって心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進について」の副題で発表されました。学校における歯科健康診断を健康教育にどう生かすかを統計調査の分析から進めているとの内容でした。私はその第六分科会での指導助言者として参加しましたが、3名の発表者が皆、熱心に歯科保健教育を進めている話をお聞きして、助言者として以上に、大変勉強になった分科会でした。

平成28年8月には第15回の研究大会が福岡県で開催予定です。有意義な2日間でした。ぜひ皆様も参加されてみてはいかがでしょうか。



平成27年度よい歯の学校表彰について報告

「よい歯の学校表彰」選出につきましては、以下の2つの事項を念頭に決定しました。

- ①前年度の「歯・口の健康診断結果統計調査」に基づき、DMFT0.5以下で未処置歯のある者の率が低く、処置完了者率が高い学校。
- ②学校規模（小規模校、中規模校、大規模校）を考慮。

選出につきましては、数値的に非常に近接した学校が多数あり難航いたしました。2つの事項を考慮して慎重に選出いたしました。その結果、桂川町立桂川東小学校、那珂川町立安德南小学校、中間市立底井野小学校、篠栗町立篠栗北中学校、久留米市立城島中学校に決定いたしました。



香春町立勾金小学校、春日市立春日東中学校
久留米市立合川小学校、大牟田市立松原中学校
北九州市立黒畑小学校



桂川町立桂川東小学校、篠栗町立篠栗北中学校
那珂川町立安德南小学校、久留米市立城島中学校
中間市立底井野小学校

平成27年度
歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール受賞者



小学校低学年 小郡三井 立石小学校3年
檜原 音葉



幼稚園
飯塚 ひまわり幼稚園
松山 凌久



小学校高学年
粕屋 仲原小学校4年
内山 夢弦



特別支援学校
直方 直方特別支援学校小学部1年
森 優里



中学生
久留米 荒木中学校3年
江上 初音

教育委員会賞



小学校高学年

京都 節丸小学校4年
川邊 那月



中学生

筑紫 筑紫野南中学校3年
安武 あいら



小学校低学年

大牟田 駿馬南小学校2年
やまぐち りこ



特別支援学校

久留米 久留米聴覚特別支援学校小学部6年
井上 琴葉



幼稚園

門司 鎮西保育園
はらだ まお

優秀賞



小学校低学年

粕屋 原田小学校3年
松尾 凌雅



小学校高学年

大牟田 銀水小学校4年
河野 美咲



中学生

粕屋 宇美中学校3年
福島 由莉



特別支援学校

飯塚 嘉穂特別支援学校6年
安西 夏樹

優良賞



朝倉 立石小学校6年
平 花音



豊前築上 築城特別支援学校小学部1年
田中 雷希



京都 白川小学校1年
佐々木 優芽



門司 緑丘中学校3年
緒方 小夏

佳作



飯塚 桂川小学校1年
よしごう じゅんたろう



飯塚 鎮西中学校2年
和多 みう



大牟田 歴木中学校3年
松浦 亜麻音



筑紫 片縄小学校2年
筒井 理央奈



宗像 福岡南小学校2年
前田 恵美花



筑紫 日の出小学校5年
平田 絢菜



豊前築上 唐原小学校6年
宮野 紫京



久留米 荒木小学校6年
内川 双葉



田川 金田中学校3年
荒川 夢萌音



門司 門司特別支援学校中学部2年
池田 直史

標 語

優良賞

よくかんで
だ液を出して むし歯ゼロ

田川 落合小学校6年 川畑 裕人

優秀賞

歯みがきは
健康のための 第一歩

朝倉 夜須中学校3年 小林 悠香

教育委員会賞

笑顔咲く
白くきらめく 自慢の歯

小倉 長尾小学校5年 村上 結音

会長賞

歯みがきは
命をささえる まほうだよ

若松 古前小学校5年
森山 雄貴

平成27年度 歯・口の健康に関する図画・ポスター審査 総評

審査員 公益社団法人 福岡県美術協会 理事 久保 紀子先生

【選后感】

○総評

作品全体の印象は、テーマである「歯と口の健康」を伝えようとする工夫や取り組みが随所に伺える伸びやかな作品群でした。

昨年は数点、意外性のある作品もありましたが、今年はモチーフとして「歯と口」そのものがメインの作品が多くみれました。

中にはいつまでも眺めていたい、見ている側も笑顔になれる、そんな明るく楽しいメッセージが伝わるものもあり、次に繋がる可能性を感じました。

○幼稚園の部

画面からはみ出すくらいに大きく描かれた口の様子が、のびのびと描かれ、躍動感のあるクレヨンや水彩絵の具の筆跡は実に芸術的で、完成度の高さに驚かされました。

○低学年の部

歯磨きを楽しんでいる様子が、表情豊かに描かれています。

実に楽しげで会話が聞こえてきそうです。

長〜い手、兄弟や歯科医の先生など、生活の様子が素直に伝わり好感が持てました。

○高学年の部

鮮やかな色彩のコントラストが特徴的でした。

人物として、胴体や手といった全体像が構図に入って、歯ブラシやコップを握る手の様子や、歯をキャラクターにしたアイデアもユニークで見る人の想像力が膨らみます。

○中学生の部

作品の構図に工夫がありアイデアも光り、主役のあり方、それを支える脇役の配置やボリュームが理解出来ていて、良い効果を出してい

ます。

伝えたいメッセージも明確で、作品を通じて「笑顔になれる」思いを巡らせてくれました。

独特な視点で描いた秀逸な作品がありましたが、タッチが繊細なゆえ他の作品の迫力に推され惜しくも入賞を逃した作品もありましたが、次に繋がる可能性を感じました。

○特別支援学校の部

色紙を重ねて厚みを出したり、動物と一緒に歯磨きしたり、個性豊かな表現方法が秀逸でした。触った感触や、異なった素材の組み合わせ、リズム感といった表現にも今後、期待しています。

【作品審査を終えて】

学校や家庭で「歯と口の健康に関する教え」が生活の一部として取り組みられ、伝えたいことをイメージして取り組まれた様子が伝わりました。

学校や家庭での実体験を通じて「図画・ポスター」として真っ白なキャンバスには、伝えたいことをもっと「自由」に挑戦して良いと思います。

図画・ポスターのテーマである「歯と口の健康に関する」ことは、「歯や口」そのものをメインに描くことも大切な要素です。

高学年の生徒さんには「歯や口」そのものを描くことに止まる事なく、是非「伝えたいことは何か・・・」に、今少し時間をかけて考える事で「文字」が無くても伝わる描き方にチャレンジされるのも良いかもしれません。

皆さんの次なる作品を期待してやみません。

作品を通じて、制作された生徒さんやご指導された先生方のパワーが伝わりました。

ありがとうございました。

平成27年度「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」審査結果

図画・ポスターコンクール 幼稚園

会長賞	飯塚 ひまわり幼稚園	松山 凌久
教育委員会賞	門司 鎮西保育園	はらだ まお

図画・ポスターコンクール 小学校低学年

会長賞	小郡三井 立石小学校	3年	楠原 音葉
教育委員会賞	大牟田 駿馬南小学校	2年	やまぐち りこ
優秀賞	粕屋 原田小学校	3年	松尾 凌雅
優良賞	京都 白川小学校	1年	佐々木 優芽
佳作	飯塚 桂川小学校	1年	よしごうじゅんたろう
佳作	宗像 福岡南小学校	2年	前田 恵美花
佳作	筑紫 片縄小学校	2年	筒井 理央奈
入賞	豊前築上 南吉富小学校	2年	高崎 大地
入賞	田川 伊方小学校	2年	池田 仁宇
入賞	朝倉 東峰小学校	3年	小野 暖大
入賞	浮羽 吉井小学校	3年	原田 夏奈
入賞	久留米 南小学校	1年	正岡 寛隆
入賞	八女筑後 筑後北小学校	1年	しげの こうせい
入賞	大川三潁 川口小学校	1年	うめざき はやと
入賞	柳川山門 下庄小学校	3年	平野 さき
入賞	門司 伊川小学校	1年	野上 ちひろ
入賞	小倉 長尾小学校	3年	西小野 怜世
入賞	若松 古前小学校	1年	川口 夏樹

図画・ポスターコンクール 小学校高学年

会長賞	粕屋 仲原小学校	4年	内山 夢弦
教育委員会賞	京都 節丸小学校	4年	川邊 那月
優秀賞	大牟田 銀水小学校	4年	河野 美咲
優良賞	朝倉 立石小学校	6年	平花 音
佳作	豊前築上 唐原小学校	6年	宮野 紫京
佳作	筑紫 日の出小学校	5年	平田 絢菜
佳作	久留米 荒木小学校	6年	内川 双葉
入賞	田川 弓削田小学校	5年	板持 花音
入賞	飯塚 立岩小学校	6年	長野 由依
入賞	宗像 自由ヶ丘小学校	6年	横山 菜々美
入賞	小郡三井 小郡小学校	6年	宮崎 明日香
入賞	浮羽 吉井小学校	5年	樋口 華奈
入賞	大川三潁 三潁小学校	4年	富松 そうた
入賞	柳川山門 ニッ河小学校	5年	原田 崇太
入賞	門司 柄杓田小学校	6年	濱崎 望
入賞	小倉 北小倉小学校	4年	伊藤 珠奈
入賞	戸畑 中原小学校	6年	稲垣 琴音
入賞	若松 古前小学校	5年	川並 大樹
入賞	八幡 青山小学校	6年	松藤 萌音

図画・ポスターコンクール 中学生

会長賞	久留米 荒木中学校	3年	江上 初音
教育委員会賞	筑紫 筑紫野南中学校	3年	安武 あいら
優秀賞	粕屋 宇美中学校	3年	福島 由莉

優良賞	門司 緑丘中学校	3年	緒方 小夏
佳作	田川 金田中学校	3年	荒川 夢萌音
佳作	飯塚 鎮西中学校	2年	和多 みう
佳作	大牟田 歴木中学校	3年	松浦 亜麻音
入賞	京都 仲津中学校	3年	中島 春菜
入賞	豊前築上 上毛中学校	2年	杉山 恵梨佳
入賞	直方 直方第三中学校	2年	日高 菜々子
入賞	宗像 河東中学校	2年	本田 涼夏
入賞	糸島 前原中学校	1年	合戸 杏梨
入賞	朝倉 甘木中学校	3年	大部 菜々
入賞	八女筑後 上陽北浜学園中学校	2年	鐘ヶ江 萌恵生
入賞	小倉 板櫃中学校	3年	西村 夢香
入賞	八幡 中央中学校	2年	大沼 誓

図画・ポスターコンクール 特別支援学校

会長賞	直方 直方特別支援学校小学部	1年	森 優里
教育委員会賞	久留米 久留米聴覚特別支援学校小学部	6年	井上 琴葉
優秀賞	飯塚 嘉徳特別支援学校	6年	安西 夏樹
優良賞	豊前築上 築城特別支援学校小学部	1年	田中 雷希
佳作	門司 門司特別支援学校中学部	2年	池田 直史

標語

会長賞	若松 古前小学校	5年	森山 雄貴
教育委員会賞	小倉 長尾小学校	5年	村上 結音
優秀賞	朝倉 夜須中学校	3年	小林 悠香
優良賞	田川 落合小学校	6年	川畑 裕人
入賞	京都 城井小学校	6年	白石 歩夢
入賞	豊前築上 上毛中学校	3年	山崎 璃稀
入賞	直方 若宮西小学校	5年	山本 侑輝
入賞	飯塚 牛隈小学校	1年	中山 和香
入賞	筑紫 二日市北小学校	5年	谷口 茉穂
入賞	八女筑後 黒木小学校	6年	堤 麻帆
入賞	大牟田 みなと小学校	6年	田中 翔空
入賞	門司 小森江西小学校	5年	福田 夏生
入賞	戸畑 一枝小学校	5年	森田 莉央
入賞	八幡 香月中学校	2年	江上 万葉
入賞	遠賀中間 遠賀南中学校	2年	村田 英里



審査をする平瀬専務、三箇副会長、須ノ内副会長
久保先生、柳迫常務

養護教諭校外研修会について

(新規採用者、教諭経験5年経過10年経験者)

専務理事 平 瀬 久 義

福岡県教育委員会では、毎年学校の先生方に対し研修会を開催しています。養護教諭にたいしてもその一環として「保健活動を学校教育活動の一環として広い視野からとらえ資質向上を図ること」を目的に“養護教諭校外研修”という名称で、新規採用の養護教諭と5年・10年経験の先生方を対象に県立スポーツ科学情報センター（アクション福岡）で開催されています。今回の研修は、「学校における救急処置の実際」「学校の危機管理における養護教諭の役割」「危機発生時における学校の体制づくりと心のケア」などについて学校保健関係者が講師となり行われました。

学校歯科保健関係の講習については、本会へ講師派遣依頼がきており、本年は教諭経験5年経過10年経験者の研修は7月16日に、新規採用養護教諭の研修は12月3日に、平瀬と原野常務がそれぞれ出席いたしました。

新規採用養護研修は、「学校歯科保健活動の実際」という標題で、福岡県歯科衛生士会の松永理事と合わせて120分の講習を行っています。この研修は本年度新しく養護教諭として本採用された先生方が受講されており、学校歯科保健の基本的な知識の再確認が主要な講義の中心となっていま

す。また松永理事からは、学校現場（教室）で児童生徒に学校歯科保健指導が行えるよう、主に歯みがき指導、おやつのととり方など手作りのグッズを使った指導法を実演しておられます。

教諭経験5年経過10年経験者の研修は、「学校歯科保健の現状への理解と対応」という標題で60分の講習を行いました。今回は、学校歯科保健活動推進の効果、学校保健における学校歯科保健の位置づけ、学校歯科健康診断の生かし方、学校保健委員会の活性化などについて講義いたしました。

この養護教諭校外研修会を通していつも感心させられるのは、先生方の受講への姿勢です。まず私語はありません。寝てる人もいません。メモを取って真剣に聞いてくれます。このような先生方が学校現場に浸透していただければ、これからの学校保健教育はさらに活性化していくのではと期待しています。私たち学校歯科医もその職務の認識と自覚が求められていると思います。この研修を通じ自らも学校歯科保健の重要性を認識し、更なる発展に取り組んで行きたいと思います。

同時に、学校歯科医も学校保健関係者も地域社会からの真摯な取り組みを求められていることを自覚しなければなりません。



小倉医師会・学校医会合同講演会に参加して

〈小倉〉上 田 雄 造

平成27年9月28日（月）、午後7時より小倉医師会館大講堂にて、北九州学校医会小倉支部・小倉医師会主催の合同講演会が開催されました。講師は、内村直尚教授（久留米大学医学部神経精神医学講座）で、演題名は「子供の学習・成長・発達と睡眠とのかかわり～試験で実力を発揮するコツをおしえます～」でした。私は学校歯科医の立場で参加させていただきましたが、素晴らしい内容の講演でしたので、その概要を紹介させていただきます。

まず、（１）子供の成長に伴う睡眠の質の変化、（２）睡眠の周期、（３）睡眠の役割などについて詳細に教示されました。

次に、子供の睡眠に関して具体的に①就寝時間が不規則または夜遅い子は成長が悪い②小児期の睡眠不足はのちに不安、抑うつ、攻撃性につながる③睡眠不足は行動や発達に影響し、肥満を引き起こす（寝ぬ子は太る、子供の睡眠と生活習慣病）など警鐘を鳴らされました。その他にも、中高生とインターネットおよびスマホの影響、生活リズムと睡眠、受験に成功するコツなど興味深い話をして下さいました。

最後に、子供が夜ぐっすり眠るための10カ条

（下記）を提示され、講演を終了されました。

1. 朝一定の時刻（7時まで）に起床し、光を浴びる。（休日も平日と同時刻に起床。遅寝は2時間以内）
2. 朝食を規則正しくとる。
3. 昼間から夕方にかけて活動量を増やす。
4. 夕食は規則正しくとり、入床2～3時間前に済ます。
5. 夜（8時以降）はコンビニなど明るい所へは外出しない。
6. 入浴は入床1～2時間前に行う。
7. テレビゲームや携帯メール等は入床1時間前にはしない。
8. 寝室は暗くする（入床30分前から部屋を暗くする）。
9. 入床は規則正しく、午前0時までには床に入る。
10. 健康を保つため、必要な睡眠時間を確保する。

今回の講演を学校歯科医として拝聴し、これからも子供の心身の健全な成長・発育に寄与しなければならないと痛感しました。



「健康教育の先にある光を信じ、情熱をもって、粘り強く発信し続ける」

〈田川〉手嶋裕治

平成27年10月8日（木）、田川口腔衛生センターにおいて第38回 田川学校歯科保健研修会が、講師に元春日市立須玖小学校 養護教諭 田中さえ子先生をお招きし、開催されました。

学童期における健康観は生涯にわたる礎になるものであり、その健康観の形成は非常に大切なものです。また、その健康観をもつ子供たちは家族に対し、地域に対し、「健康」のメッセンジャーとなり、まわりに影響を与えながら成長します。そういう意味でも健康教育は非常に大切なものだと考えます。

須玖小学校での田中先生の健康教育の実際は、まず、低学年、中学年、高学年と児童の発達段階に応じた、歯と口の健康づくりの大きな方針、計画をたてます。その大きな方針、計画の見通しのなかで子供たちが自分で気づき、考え、行動する環境づくりをしています。

そのための取り組みとして、歯科医師、歯科衛生士、学校職員等と連携して歯みがき指導、健診、授業を行うなど、子供たちが歯と口を健康にしたいという気持ちになる取り組みをします。

子供たちが歯と口を健康にしたい、という気持ちになったら、CO者GO者に対する個別の健康指導、染め出し、ブラッシング指導等を行い、

健康に関する正しい知識を獲得し理解するための取り組みを行います。

理解が進んだ後、児童保健委員会を中心に日常生活における歯と口の健康生活の実践と継続を図る取り組みに移ります。子供たちで歯みがき健康カレンダーをつくり、推進するなどプロジェクトが次々立ち上がり、そのプロジェクトを実践していきます。くじけそうになったときも、その実践と継続を見守り支援します。

田中先生は養護教諭として、様々な取り組みを進める中で、子供たちが立ち上げたプロジェクトが子供たち主体で円滑に行われるように支援するため、学校職員、歯科医師、歯科衛生士、PTA、など様々な人々を上手に巻き込んで支援する環境をつくります。支援する人々も子供たちを取り巻く環境です。その環境をどう作っていくか、粘り強く、情熱をもって携わっていきます。

我々学校歯科医は、子供たちが健康観をつくる大事な時期に携われていることをうれしく思い、また、大きな目をもちながら情熱と愛情をもって健康教育に携わっていきたい、そう思えた田中さえ子先生の講演でした。貴重な熱いお話、ありがとうございました。



田中さえ子先生



「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール表彰式」

〈筑紫〉岡村博久

こんにちは、筑紫学校歯科医会です。筑紫学校歯科医会では、「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」と題して、図画・ポスターと標語を筑紫地区（春日市、大野城市、筑紫野市、太宰府市、那珂川町）の小・中学校と特別支援学校から募集しています。平成27年度、図画・ポスターの部は小学校1,232点、中学校203点、特別支援学校14点、合計1,449点。標語は小学校720点、中学校1,775点、合計2,495点ご応募いただきました。

図画・ポスターの部は、5月24日（日）筑紫歯科医師会館大ホールにおいて、筑紫地区の中学校美術教諭の先生と、筑紫学校歯科医会会長以下理事10名で、歯科医師の意見も交えながら、また、標語は筑紫地区中学校国語研究会の先生方をお願いして、厳正なる審査を行いました。

優秀作品は、「歯をみがく」、「歯を大切にすること」を生活の中で、より身近なものとして考えさせられる工夫がなされ、8020運動をうたった作品も見られ一生懸命描かれた作品ばかりでした。この作品を、見ていただいた来館者の方々が、歯を大切にしてください、8020はおろか、8025、8030を目指していただきたいと思います。

やみません。

平成27年6月7日（日）、水と緑の町、那珂川町の「ミリカローデン那珂川・文化ホール」において開催された、第38回歯を守る集い「食と健口づくりフェスタ2015」において、小・中学校各学年の最優秀賞、優秀賞の児童生徒さんたちをお招きし、表彰式を行いました。

中でも、福岡県学校歯科医会へ上程する最優秀賞の作品には、那珂川町町長賞、那珂川町教育委員会教育長賞、福岡県学校歯科医会会長賞、筑紫歯科医師会会長賞が授与されました。町長、教育長、三箇福岡県学校歯科医会副会長、松崎筑紫歯科医師会会長にもご出席いただき、直接授与していただきました。

筑紫地区養護教諭研究会のご来賓の方々、ご家族や学校関係者の方々にも多数ご参列いただき、元気なチビっ子たちが会場を駆け回り、アットホームな表彰式でした。

また、入選された作品は、会場エントランスホールに展示され、作品の前では入賞した子供たちが、記念写真やビデオ撮影で、楽しそうににぎわっていました。

来年度は春日市での開催予定です。



図画・ポスターコンクール表彰式

〈直方〉山 本 清

直方歯科医師会では、毎年6月に、直方歯科医師会館において、「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」の入選作品の展示会と、優秀者表彰式を行っています。

今年も6月6日（土）7日（日）の2日間、ポスター・標語の展示を行い、多くの方に来てもらいました

6日の午後2時から、本会会館大会議室において表彰式を行いました。入賞した児童・生徒一人ひとりに、本会の青木和敏会長から賞状と記念品が渡され、会場内からは大きな拍手がおこっていました。

この時、会長賞を受賞した森優理ちゃんの作品が、今回県学歯会長賞を受賞し、10月24日、福岡県歯科医師会館で行われた、第20回福岡県学校歯科保健大会において表彰を受けました。

直方での表彰式では、照れくさいのか、恥ずかしいのか、壇上に上がるまでちょっともじもじしていましたが、今回は2度目の表彰式ということもあってか、少し恥ずかしそうな表情ではあるも

の、しっかりと賞状を受け取っていました。

表彰式の後、ロビーにいる優理ちゃんに、「来年もポスター書いてね」とお願いしたところ、恥ずかしいのかお母さんの背中に隠れてしまいました。確約は取れませんでした。ホークス同様、ポスターコンクール2連覇に期待をしてしまいます。

小学校の運動会が5月に行われるようになり、その練習のため絵をかく時間が確保できないという声を聴くようになりました。実際、ここ数年ポスターの応募数が減少してきているようです。歯科健診などで小学校に伺ったときに、「歯・口のポスターよろしくお願いします」と、声掛けはするのですが、4・5月は行事も多いからと、なかなか難しいようです。健診の時期からではポスターの締め切りに間に合わないの、早め早めをお願いしよう（実行できてはいませんが）、毎年思っています。

来年は「応募作品が多すぎて、選ぶのに苦労しました」と言えるようにしたいと思います。



入選作品（青木会長）



表彰式の様子

特別支援学校への訪問

〈豊前築上〉宮 部 宏 之

平成26年11月11日、築上町の福岡県立築上特別支援学校の小学部へ「いいな、いい歯週間」事業の一環として訪問しました。毎年地域の小学校に出向き、学年ごとに講義等を行うものですが例年学校の選定には苦勞します。しかし本校は教職員の歯科に対する意識がとて高く、今年度の事業へも自ら手を挙げて下さいました。

学校との幾度にも渡る打ち合わせにより、普段は幼稚園保育園で披露する豊前築上歯科医師会のお家芸、劇「アンパンマン」をすることになりましたが、パニックを起こさないようにあまり近くで怖がらせない、などの配慮をするようにしました。

おかげで当日は劇も恙なく終了し、その後に知的障害教育部門、肢体不自由教育部門の部門ごとに各学年に分けられた教室で歯科医師、歯科衛生士によりブラッシング指導、希望者には染め出し、フッ化物塗布を行い、保護者向けの講演を行って終了となりました。

平日開催ということで保護者の参加は決して多くはありませんでしたが、それを賄うに足る先生方の情熱と努力がこの学校にはあります。毎日の給食後は各児童一人ひとりにブラッシングを行い、普段から保護者への啓発をされ、むし歯予防

デーとなるとポスター類を毎年多数出展するようにしていただいております。校医である私もそれらの苦勞を考えると頭が下がります。

年に一度の開催の為、事業としては地域内の各小学校へは20年に一度ぐらいのペースでしか訪問できません。催しをしてもその場限りで感想もその後の経過もわからない、ということも多いのです。本校へは先生方の強い希望で今年度より低学年の児童を対象に保護者参観の形で校医がブラッシング指導に赴くことになりました。

今後も先生方の情熱と努力に応えられるよう、学校歯科保健に携わっていきたいと考えております。



「出身園での歯みがき指導」

〈京都〉吉 永 隆 一

平成27年10月20日、京都歯科医師会の厚生事業の一環として、福岡県みやこ町にある社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団犀川のぞみ保育園で、歯みがき指導を行った。

のぞみ保育園は今年で60年を迎えるキリスト教の保育園で、なんと、私が3～4歳の時に通っていた園だ。懐かしい思い出のある場所や建物は新しく建て替わってはいるが、運動場などの場所は変わりなく懐かしい。（私も今年で57歳）

園児の数は、0、1、2歳児が10名、3歳児8名、4歳児8名、5歳児7名の合計33名。佐藤学校保健担当常務、増田委員長、吉永委員、歯科衛生士、歯科助手5名の総勢8名でブラッシング指導を行った。

佐藤常務の挨拶のあと、DVDの紙芝居、

まもる君とサボる君、ムシバラスのお話を10分程度上映した。子供たちも興味津々で、食い入るように見いていた。その後、歯の模型を使いみがき方を説明し染め出し開始。子供たちも口の中と歯が赤く染まったのを手鏡で友達同士確認しあった。歯科衛生士の指導のもと子供たちでブラッシング。練習した歯ブラシの持ち方、歯のみがき方で徐々にしっかりと上手にブラッシングが出来るようになった。のぞみ保育園の保育士さんの協力もありスムーズにブラッシング指導が終了した。

子供たち、保育士さんと全員で最後に記念撮影。みんな笑顔で、ハブラシを手に持ってイエイのポーズ。約1時間の子供たちとの楽しい時を過ごし癒された。



歯・口の健康に関する図画・ポスターの審査

〈宗像〉古賀清和



平成27年7月4日（土）、宗像歯科医師会で歯・口の健康に関する図画・ポスターの審査会を行いました。

本年度の図画・ポスターは宗像・福津市内の小・中学校から278点の応募がありました。

審査には画家の白石・外山両先生と学校歯科担当理事の3名があたり、72点の入賞

者（県学歯の推薦・宗像歯科医師会会長賞を含む）を選定しました。近年、応募作品の数は少ないが事前に選んであるのか力作が多く選定には苦勞しました。

小学校低学年の部では、構図・色彩のバランスが良くのびのびとした表現力があると評されました。小学校高学年の部では、配色・印象の強さで選ばれ、中学校の部では写真と見間違える程の精密さで、絵にストーリー性を持たせた事が評価されました。

入賞した作品は、地元の西日本シティ銀行に夏休みの期間中（7月20日～8月20日まで）ロビーに展示されました。



表彰おめでとうございます

◎秋の叙勲

◇瑞宝双光章



堤 清 人
(大川三潋)元会員

◇瑞宝双光章



平 河 辰 之
(柳川山門)

◇瑞宝双光章



森 山 剛
(遠賀中間)

◎文部科学大臣表彰

日 時 平成27年12月3日(木) 15:00～

平成27年度全国学校保健・安全研究大会



山 地 直 樹
(小 倉)

◎福岡県学校保健功労者

日 時 平成27年11月25日(水)

場 所 福岡リーセントホテル 舞鶴の間

岡 本 学 (田 川)	玉 山 光 吾 (田 川)	青 木 和 敏 (直 方)
仲 吉 信 彦 (筑 紫)	木 附 信 介 (久 留 米)	薦 野 修 (久 留 米)
白 谷 元 治 (久 留 米)	徳 丸 博 文 (久 留 米)	馬 田 研 一 (八女筑後)
古 賀 俊一郎 (柳川山門)	杉 野 忍 (大 牟 田)	井 尾 尚 (門 司)
白 石 輝 久 (小 倉)	荒 澤 耕 治 (八 幡)	栗 田 英 樹 (八 幡)
高 島 昭 博 (遠賀中間)		

◎平成27年度よい歯の学童表彰

小学校6年生	男374名 } 女381名 }	計 755名
中学校3年生	男163名 } 女162名 }	計 325名

合計 1,080名

◎平成27年度 第54回全日本学校歯科保健優良校

筑 紫 太宰府市立太宰府南小学校
(日本学校歯科医会会長賞)

事業報告

研究・研修事業

(1) 第14回九州地区健康教育研究大会

日 時 平成27年8月3日(月)・4日(火) 9:00～
場 所 長崎ブリックホール
出 席 者 杉原会長・須ノ内副会長・原野常務理事

(2) 平成27年度九州地区学校歯科医会役員連絡協議会

日 時 平成27年8月8日(土) 14:00～
場 所 宮崎県歯科医師会館
出 席 者 杉原会長・三箇副会長・平瀬専務理事
協議事項
(1) 日本学校歯科医会への要望事項について
(2) 平成27年度九州地区学校歯科関係事業計画について
(3) 各地区提出協議題について
(4) その他

(3) 第19回日本学校歯科保健・教育研究会

日 時 平成27年9月6日(日) 13:00～17:00
場 所 東京医科歯科大学歯学部 7号館 第2講義室
出 席 者 須ノ内副会長・柳迫常務理事

(4) 第79回全国学校歯科保健研究大会

日 時 平成27年10月29日(木)・30日(金) 13:00～
場 所 ホクト文化ホール(長野県県民文化会館)
出 席 者 杉原会長・平瀬専務理事
主 題 「生きる力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して
生涯を通じて自らの健康を保持増進するための学校歯科保健のあり方

(5) 平成27年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会

日 時 平成27年11月12日(木) 10:00～
場 所 フェニックス・シーガイア・リゾート シーガイアコンベンションセンター
出 席 者 杉原会長

(6) 平成27年度全国学校保健・安全研究大会 愛媛大会

日 時 平成27年12月3日(木)・4日(金) 15:00～
場 所 ひめぎんホール
出 席 者 杉原会長・三箇副会長・平瀬専務理事・古賀理事
主 題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む
健康教育の推進
—健康で安全な生活を送るために自ら実践できる子供の育成—

(7) 第65回全国学校歯科医協議会

日 時 平成27年12月3日(木) 17:00～

場 所 松山全日空ホテル
出 席 者 杉原会長・三箇副会長・平瀬専務理事・古賀理事
講 演 「学校歯科健康診断の改訂について」

座 長 愛媛県歯科医師会 会 長 是 澤 恵 三
講 師

「今後の健康診断の在り方等に関する検討会」・
「児童生徒の健康診断マニュアル改訂委員会」概要
日本学校歯科医会 常務理事
埼玉県歯科医師会 常務理事 学校歯科部長

齋 藤 秀 子

学校歯科医の活動指針改定について

～CO・GOの取り扱い及び健康診断結果のお知らせ等を中心にして～

明 海 大 学 学 長 安 井 利 一

(8) 第20回福岡県学校歯科保健研究大会

日 時 平成27年10月24日(土) 13:00～18:00
場 所 福岡県歯科医師会館 5階 大ホール
参 加 者 381名

主 題 『歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して』
～児童・生徒の「生きる力」を育む歯・口の健康教育～
実践活動報告

自己を見つめ、豊かな心と健やかな体づくりに取り組む子どもの育成
～「食事・運動・睡眠」を柱にした、

望ましい生活習慣の定着を目指して～

北九州市立二島小学校 養護教諭 村 上 恵 里
教 諭 佐 伯 浩

基調講演 「生き方を学ぶ 生き方を考える 学校での歯科保健」
～“かくありたしの像”を求めて～

鳥取市立鹿野中学校 養護教諭 山 本 み さ

基調講演 「子どもの心と体を元気にできる健口食育」
南島原市立口之津小学校 教 諭 福 田 泰 三

シンポジウム(ディスカッション)

児童・生徒の「生きる力」を育む歯・口の健康教育

座 長

春日市立春日西小学校 校 長 福 原 秀 伸

シンポジスト

鳥取市立鹿野中学校 養護教諭 山 本 み さ

南島原市立口之津小学校 教 諭 福 田 泰 三

国立モンゴル医科大学歯学部 客員教授 岡 崎 好 秀

特別講演 「学校歯科医から見た食育」

国立モンゴル医科大学歯学部 客員教授 岡 崎 好 秀

会務報告

各種会議・会員現況報告

7月4日 第2回広報委員会

4日 第1回制度調査委員会

11日 第4回常務理事会

18日 第2回学術委員会

18日 第3回広報委員会

25日 第4回理事会

8月1日 合同会議

9月5日 図画・ポスター審査会

5日 第5回常務理事会

19日 第3回学術委員会

19日 第2回制度調査委員会

26日 第5回理事会

10月3日 第4回学術委員会

3日 第1回普及指導委員会

3日 第3回制度調査委員会

10日 第6回常務理事会

17日 第6回理事会

24日 第20回福岡県学校歯科保健研究大会

11月14日 第7回常務理事会

21日 第2回普及指導委員会

21日 第4回制度調査委員会

21日 第2回広報小委員会

28日 第7回理事会

会員現況報告(平成27年11月1日現在)

加盟団体名	会員数	加盟団体名	会員数
京 都	55名	久 留 米	56名
豊 前 築 上	27	八 女 筑 後	55
田 川	42	大 川 三 瀬	25
直 方	41	柳 川 山 門	39
飯 塚	66	大 牟 田	45
宗 像	58	門 司	31
粕 屋	29	小 倉	85
糸 島	9	戸 畑	19
筑 紫	83	若 松	20
朝 倉	27	八 幡	81
小 郡 三 井	25	遠 賀 中 間	37
浮 羽	19	合 計	974

東地区231名、西地区179名、南地区291名、北地区273名

◎公 告

○平成27年度 臨時総会（第103回）

日 時 平成28年3月19日（土）午後3時00分
場 所 福岡県歯科医師会館 5階 大ホール

◎予 告

●基礎研修会及び新任研修会

日 時 平成28年2月20日（土）午後2時50分～
場 所 福岡県歯科医師会館 5階 視聴覚教室

物 故 会 員

自 平成27年6月2日 至 平成27年11月1日

ご冥福をお祈り致します

外 城 康 之 53才 （遠賀中間）
藤 瀬 啓 五 68才 （門 司）
佐 伯 敏 道 60才 （筑 紫）

福岡県学校歯科医会 ホームページ

<http://www.fk-gakusi.jp>



編 集 後 記

昨年10月24日（土）に開催されました、第20回福岡県学校歯科保健研究大会は、たいへん多くの参加をいただきまして、誠にありがとうございました。

私も主催者側として、毎年参加していますが、昨年の大会は特に活気のある大会だったのではないかと感じております。講師の先生方の学校歯科保健教育に対する熱い思いというのが講演の中で、ひしひしと伝わってまいりました。例年だと講演が始まるとポツリポツリと席が空いていくこともありました。昨年は最後まで席を立つ人がほとんどいませんでした。今年の研究大会も「参加してよかった」と思われるような大会にしていきたいと思っていますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

広報委員会副委員長 黒石 崇之



有明海

県学歯会報

第 88 号

毎年2回発行

発行人 杉原 瑛治

発行所 〒810-0041 福岡市中央区大名1丁目12-43
一般社団法人 福岡県学校歯科医会
TEL 092-714-4627 FAX 092-714-7599
E-mail k-gakusi@alpha.ocn.ne.jp
U R L <http://www.fk-gakusi.jp>

印刷所 〒812-0065 福岡市東区二又瀬新町12-29
㈱大里印刷センター
TEL 092-611-3118 FAX 092-629-2715